ハルバート(Homer B. Hulbert) 博士68周忌追悼式を参加して

2017年8月11日

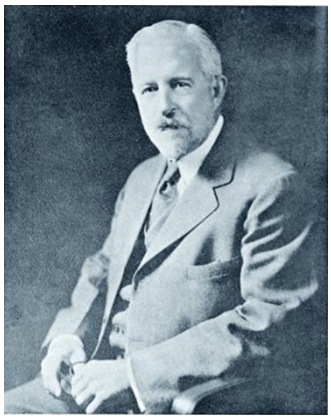
文責：小松コリア　尹熙竣

はじめに

20世紀初め国際の正義と世界平和の象徴人物であるアメリカ人ホーマー・ハルバート(Homer B. Hulbert)博士を追悼する社団法人ハルバート博士記念事業会から、ハルバート博士死去68周忌の追悼を企画しており、小松理事長へ招待状を送ってきました。

それを受け、手術を終え、入院中の小松社長が交易場さんに文書のポイントと流れを支持され、何回かの打ち合わせと修正を経て「人類史における究極の戦前責任を問われる」タイトルの追悼文を完成させました。今回は、社是・経営理念の具現化と、平和の事業化を具体化している小松理事長の名代として、尹と金顕哲顧問が参席し、尹が式典で追悼文を代読させて頂きました。

1. ホーマー・ハルバート(Homer B. Hulbert)博士とは



宣教師であり言語学者・史学者だったハルバート博士は、韓国人よりも、さらに韓国を愛さた。 1886年、王立英語学校である育英公園の教師として初めて韓国との縁を結んだハルバート博士は、韓国の独立のため、生涯を捧げた。明成皇后（1851～1895）が殺害された直後、ハルバート博士は、高宗（コジョン、朝鮮第26代王）を保護するため、皇帝の寝殿で不寝番に立った。 1905年に乙巳（ウルサ）条約（日本が韓国の外交権をはく奪するため韓国政府と強圧的に締結した条約）が結ばれた後は、韓国の自主独立を主張するため、高宗の密書を持って、米大統領と国務長官を訪ねた。 しかし、すでに、日本と、アジアの分割に合意していた、当時の米政府官吏は、同氏に会ってくれなかった。

1907年のハーグ平和会議に密使を送るよう申し立てた人もハルバート博士だ。 同氏は、李儁（イ・ジュン）・李相ソル（イ・サンソル）烈士らよりも先にハーグ入りし「会議時報」に韓国代表団の立場を示す文を掲載させた。

同事件以降、韓国を離れるようになったハルバート博士は、徐載弼（ソ・ジェピル）、李承晩（イ・スンマン）博士らとともに、米国で朝鮮（チョソン、1392～1910）の独立運動を活発に繰り広げた。

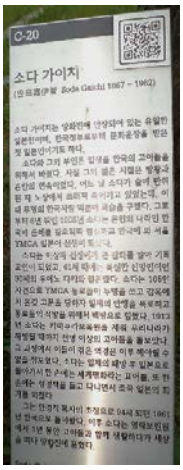
ハルバート博士は1949年に再び韓国を訪れたが、訪韓1週間後の8月5日に死去した。韓国に葬られたいという遺言のため、ソウル麻浦の外国人宣教師霊園に埋葬された。韓国の歴史上‘建国功労勲章(1950)’と‘金冠文化勲章(2014)’を受賞された唯一無二の方で、1909年、安重根義士は旅順監獄にて‘ハルバートは韓国人としては一日も忘れることができない人物’であると日本警察に供述することにより最上の敬意を表した。

2. 場所

8月11日（金）　11時、麻浦区合井洞所在の楊花津外国人宣教師廟院

会場である聖堂　　宣教師の墓地

式典であった楊花津外国人宣教師廟院は個人的に2回目の訪問でありました。ここは、宣教活動のため来韓されたハルバート博士の他、アメリカ、イギリス、ドイツ、デンマーク、ロシア、オーストラリア、フランスなど15か国417名の外国人のお墓があります。その中、唯一の日本人が山口県出身で、中国で朝鮮人に助けられたのがきっかけとなり、植民地下の朝鮮で孤児の保育活動に専念した曾田嘉伊知（そだ・かいち）であります。



３．式典の様子

約300人の参列者が見守る中、国歌斉唱、国民儀礼、お祈り、金・ドンジン(社)ハルバート博士記念事業会長による追悼式辞に続き、「ありらん」の歌が捧げられました。追悼式には、マーク・ネパ（Marc Knapper）駐韓アメリカ大使、朴維徹光復会長代理人、尹・ジョンオソウル報勲北部処長なども参加されました。

式場の様子

金・ドンジン(社)ハルバート博士記念事業会長

2017年はハルバート博士が亡くなって68周年で、 第２回ハーグ平和会議の蜜者として活躍される中、日本の迫害により韓国から追い出さて110年になります。23歳に異国の韓国にきて、朝鮮の青少年たちに近代思想を高知させ、真の愛国は何かを身をもって実践された博士の愛国精神に注目する必要があります。

1942年ワシントンで開かれた“韓人自由大会（Korean Liberty Conference）”にて、“韓国（朝鮮）の独立は天賦の権利である”と主張し、韓国人は団結し独立を成し遂げないといけないと呼びかけました。博士は自伝書に、ある一つの主張を過激に支持するのが偏見だというならば“私は正義、国際平和、正しい愛国心に偏見を持つ人である”と言いました。ここで、博士は愛国心を“正しい愛国心”と言いました。自国主義に盲目的に従うのとなく、正義と人間愛という、人類共存のため、普遍的価値に適する愛国が正しい愛国だと主張したのです。

韓国は経済、外交的に難しい環境に置かれています。複雑な現実仕組みの中には、互いに譲り合い最選択ではなく、次選択でも受容する勇気も必要です。ハルバート博士が実践された正義、人間愛、実用の価値に符合すればより輝くでしょう。博士の「正しい愛国心」精神が国民たちの心の中に染み込み我が社会がより合理的で、理性的な社会になることを願っています。

マーク・ネパ(Marc Knapper)駐韓アメリカ大使

私は昨年に続き2回目の追悼式の参加です。この度、新しい政権が誕生しましたが、政権が変わっても、韓米同盟関係は変わらないし、ここに集まっている皆様が韓米同盟の証明です。

ハルバート博士は偉大な宣教師であり、教師であり、平和主義者でありました。長い間、博士を含め多くの方の人的交流がありました。両国は人権、民主主義の共通の価値を共有しております。

北朝鮮との問題が緊迫していますが、この時期だからこそ、韓米同盟は強くするべきであります。

4. 人類史における究極の戦前責任を問われる

マーク・ネパ（Marc Knapper）駐韓アメリカ大使、朴弘燮麻浦区庁長の次に小松理事長から準備して下さった「人類史における究極の戦前責任を問われる」追悼文を会場の皆様に読み上げました。

司会者より、「安重根義士に対する尊敬と、独立記念館などとの交流活動、ハルバート博士の平和精神に共感された日本人がいます。彼は人間自然科学研究所の小松昭夫理事長です。先日、ガンの手術をされたが、本日のために、追悼文を送ってきました」

追悼文を読み上げる前に尹から以下の挨拶をしました。

「こんにちは。麻浦区に本社を置いてある株式会社小松コリアの尹と申します。本日は、小松理事長が直接参席すべきですが、急な入院のことで、参加できないことに本人も残念に思っています。代わりに入院中に直接追悼文を作成して頂きましたので、私が代読をさせて頂きます」

※追悼式典が開かれたところがソウル市麻浦区であり、区庁長も参加されていたので、あえて「麻浦区に本社がある」を言いました。

表面的にアメリカと北朝鮮による韓半島の武力衝突の可能性が高まりつつある本日、小松理事長の追悼文を代読するチャンスを頂き光栄でした。会場では、「日本の良心＝小松昭夫」と紹介されている中、会社のオーナではありますが、朝鮮の独立運動をされたアメリカ人宣教師の追悼式に、日本人が書いた追悼文を、韓国人である私が読み上げることに対する意義と、言葉一つ一つの意味を考えながら代読いたしました。

式典で、挨拶された6名の中、案内パンフレットに唯一追悼文が掲載されており、一番長い文書でしたが、参席の皆さんが、最初から最後まで真剣に耳を傾けてくださり、追悼文を読み上げた後には、多くの拍手を頂きました。

席に戻ると3名から、「素晴らしい文書でした」、「まさに戦前責任が問われるタイミングです」と声を掛けてくださいました。

その中でも、「文化遺産国民信託」の金宗圭(キム・ジョンギュ)理事長より、多くの関心を示し、小松理事長と面会できるように研究員に段取りをさせますと言いました。

ホームページ http://www.nationaltrustkorea.org/

紹介映像 https://www.youtube.com/watch?v=4gpuT-nymD0

文化遺産国民信託(The National Trust for Cultural Heritage)は、長い歴史の中で作り上げられた文化遺産が戦争や無関心により、損失されていることを、政府だけでなく、国民一人一人が自発的に参加し、文化遺産を永久保存、探していく活動団体であります。すでにヨーロッパでは、国民・市民主導の活動が当たり前になっているようです。

일본의 양심 특별기고

인류 역사 상 궁극의 '전쟁 전 책임'을 묻는다!

호머 헐버트 박사 68주기 추모식에 앞서 인사드릴 기회를 주셔서 감사드립니다.

저는 2014년 3월, 안중근 의사의 외손녀 황은주 여사, 증손자 안도용 씨가 참석한 순국 104주년 기념식에서 "안중근 의사는 민족의 영웅에 그치지 않고, 인류의 영웅이어야 한다."라고 말하여, 참석자의 열렬한 찬동을 얻었습니다. 그 안중근 의사님이 "한국인 이라면 하루도 잊어서는 안 되는 인물" 이라고 말씀하신 분이 바로 미국인 헐버트 박사님이라고 들었습니다. 헐버트 박사님이 한국에서 활동하신 19세기 말부터 20세기 초엽은 인류 역사적 격동의 시대였으며, 1914년에 인류 최초의 총력전인 제1차 세계 대전이 유럽에서 발발한 시기였습니다. 일본은 국책을 오판하여 삿쵸오도히(薩長土肥, 사쓰마, 조슈, 도사, 히젠)와 공가(천황과 귀족)가 협력(조정과 막부의 일치협력)하여 권위와 권력을 통합했습니다. 1872년~1879년 류큐(오키나와) 처분을 거쳐 중앙집권국가를 탄생시키고, 패도의 길을 걸어갔습니다. 그 후 청일전쟁을 거쳐 대만을 합병하고 중국을 침공했습니다. 러일전쟁 후 1905년 을사늑약(제2차 한일협약)으로 한국의 외교권을 박탈하고, 1910년에 한국을 병탄하였습니다. 그런 흐름 속에서 헐버트 박사님은 세계열강에 한국의 자주독립을 주장하기 위해 1907년 제2회 헤이그만국평화회의에 특사를 파견할 것을 발안하셨습니다. 그 헤이그 특사 중 한 분이셨던 이준 열사가 객사한 네덜란드 헤이그의 호텔이 지금은 이준열사기념관이 되어있습니다. 저는 2012년 이준열사기념관을 방문하여, 저와 특별한 인연이 있는 안중근 의사님의 유묵 "독립"의 복제품을 기증 전시하였습니다. 제2회 헤이그만국 평화회의 참석자 중에 오스트리아의 베르타 폰 주트너라는 분이 있었습니다. 주트너 여사는 1889년 베스트셀러 소설 '무기를 내려 놓으라!'를 발표하여, 전쟁을 저지할 것을 전 세계에 호소하며 국제적으로 평화 활동을 전개하고 1905년 여성 최초로 노벨 평화상을 받았습니다.

미국의 앤드류 카네기의 기부로 헤이그 시에 건설된 '평화궁'의 100주년 기념사업 중 하나인 '세계의 평화 자선가 20명'전이 2013년 열렸고, 저도 그 중 한 명에 선정되어 패널 전시되었습니다. 개회식에 맞춰 주트너 흉상의 제막식이 거행되었습니다. 그곳에서 흉상 제작자인 네덜란드 조각가 잉그리드 로레마 씨와 만나게 되었고, 그 인품과 심원한 신념이 느껴지는 흉상에 매료되어 카네기재단의 찬동을 얻어, 2구의 주트너 상을 제작하게 되었습니다. 주트너 상이 '특별한 평화 사절'로서 세계 각지에 건립되어 그 뜻이 현대에 되살아나 확실한 평화로의 흐름이 시작되기를 기원합니다.

한국독립운동에 매진하신 헐버트 박사는 "한국인보다 한국을 사랑한 한국의 영원한 친구"라고 불리며, 한국의 문화를 세계에 널리 알리는 역할도 수행하셨습니다. 동시대인 19세기 말에 그리스 태생인 아일랜드 작가 라프카디오 헌(고이즈미 야쿠모)은 일본 시마네현 마츠에시에서 교편을 잡고, 미국과 유럽에 본격적으로 일본 문화를 소개했습니다. 현재 헌의 외국 문화(다른 문화)에 마음을 여는 '오픈 마인드'가 높은 평가를 받고 있습니다. 헌은 청일 전쟁 후에 일본의 풍조에 대해 "아마도 일본의 앞으로의 위기는, 아마도 이 터무니없는 큰 자부심에 있다고 말할 수 있을 것이다"(〈마음〉, 1896) 라는 경고를 보냈습니다. 헌의 지적대로 일본은 길을 잘못 들어섰고, 여러분들의 나라에 큰 재난을 안겨드렸습니다. '전쟁 후 책임'을 다하는 입장의 일본인의 한 사람으로서 진심으로 사죄드립니다.

현재 세계는 제1차 세계대전 전의 상황과 흡사하다는 지적이 있습니다. 인간자연과학연구소는 1997년부터 세계의 전쟁 · 평화 기념관을 방문하여 학습 · 헌화 · 기부 등의 활동을 지속하고, 분쟁 · 전쟁에 이르는 배경과 경위, 실태를 연구하여, '전쟁 전 책임' '전쟁 중 책임' '전쟁 후 책임'의 3분류로 나누어 고찰해 왔습니다. 지금 이대로라면 일본, 대한민국, 북한, 그리고 3대 핵 강국인 미국, 러시아, 중국의 지도자는 물론 국민 한 사람 한 사람이 인류 역사에 있어서 궁극의 '전쟁 전 책임'을 추궁 당할 수도 있는 입장입니다. 가해의 역사를 가진 일본 국민이 목소리를 내어, 피해의 역사를 가진 대한민국, 북한을 헤아리고, 이 지역에 본질적인 영향력을 가진 미국, 러시아, 중국의 찬동을 얻어 세계의 기대를 짊어진 평화 사업을 일으킴으로써 '대립의 문화에서 공생의 문화'로의 전환을 촉진하고, 한반도와 일본 열도에서 세계 항구 평화로의 흐름이 시작될 것을 열망하고 있습니다.

마지막으로 오늘 이런 기회를 주신 헐버트박사기념사업회의 김동진 회장님, 그리고 김동진회장님을 소개해주신 도서출판 꼬레아우라 월간 〈영웅〉지의 박창재 대표님께 진심으로 감사드립니다.

일반재단법인 인간자연과학연구소 이사장, 코마츠전기산업주식회사 대표이사 **코마츠 아키오(小松紹夫)**

人類史における究極の「戦前責任」を問われる

ホーマー・ハルバート博士68周忌追悼式にあたり、ご挨拶の機会をいただき、感謝申し上げます。

私は2014年３月、安重根義士殉国104周年の記念式典で、孫黄恩珠氏、曾孫安寶榮氏の前で「安重根義士は、民族の英雄に止まらず、人類の英雄にすべきである」と申し上げ、参列者の熱烈な賛同を得ました。その安義士が「韓国人であれば一日も忘れてはならない人物」と言ったのが、米国人ハルバート博士だとお聞きしています。

博士が韓国で活動された19世紀末から20世紀初頭は、人類史的な激動の時代で、1914年に人類初の総力戦第1次世界大戦がヨーロッパで勃発しました。日本は国策を誤り薩長土肥と公家が合体し、権威と権力を統合。1872 年～1879年琉球処分を経て中央集権国家を誕生させ、覇道の道を進むようになりました。その後日清戦争を経て台湾を併合、中国に侵攻しました。日露戦争後の1905年乙巳（ウルサ）条約（第２次日韓協約）によって外交権を奪い、1910年に韓国を併合しました。世界列強に向けて、韓国の自主独立を主張するため、博士は1907年、第２回ハーグ平和会議に特使を送ることを発案されました。

その特使のひとり李儁烈士が客死されたオランダ・ハーグのホテルが、記念館になっています。2012年、李儁記念館を訪問し、私と特別の縁のある安義士の遺墨「獨立」のレプリカを展示しました。

この第２回ハーグ平和会議の出席者の中に、オーストリアのベルタ・フォン・ズットナーがいました。ズットナーは1889年、ベストセラー小説『武器を捨てよ！』を発表、戦争阻止を世界に訴え、国際的な平和活動を展開、1905年、女性初のノーベル平和賞を受賞しました。

2013 年、米国のアンドリュー・カーネギーの寄付によりハーグ市に建設された「平和宮」100 周年記念事業のひとつとして、「世界の平和フィランソロピスト20人 」展が行われ、私もそのひとりに選ばれ、パネル展示されました。その開会式に合わせて、ズットナー胸像の除幕式が行われました。そこで胸像制作者であるオランダの彫刻家イングリッド・ロレマ氏と出会い、そのお人柄と深遠な念いの伝わる像に魅了され、カーネギー財団の賛同を得て、２体のズットナー像を制作していただきました。ズットナー像が「特別の平和使節」として世界を回り、その志が現代によみがえり、確かな平和への流れが始まることを願っています。

韓国独立運動にまい進されたハルバート博士は「韓国人より韓国を愛した、韓国の永遠の友」とも言われており、韓国の文化を世界に広める役割も果たされました。

同時代の19世紀末、ギリシャ生まれのアイルランド人作家ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）が日本島根県松江市で教鞭をとり、欧米に初めて本格的に日本文化を紹介しました。今、ハーンの異文化に心を開く「オープンマインド」を評価する機運が高まっています。ハーンは、日清戦争後の日本の風潮に、こう警告を発しました。「おそらく、日本の将来の危機は、実にこの途方もない、大きな自負心にあるといえるだろう」（『心』 1896年）。このハーンの指摘どおり日本は道を誤り、貴国に大きな災難を与えました。「戦後責任」を果たす立場の日本人の一人として、心より謝罪を申し上げます。

今、世界は第１次世界大戦前の状況と酷似しているとの指摘があります。

人間自然科学研究所は、1997年から世界の戦争・平和記念館を訪問、学習・献花・寄付を行うなどの活動を続け、紛争・戦争に至る背景と経緯と実態を研究、「戦前責任」「戦中責任」「戦後責任」の３つに分けて考察してきました。

今のままでは、日本、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、そして米国・露国・中国の３大核大国の指導者は勿論、国民一人ひとりが、人類史における究極の「戦前責任」を問われる立場になります。

加害の歴史を持つ日本国民が声をかけ、被害の歴史を持つ朝鮮民主主義人民共和国、大韓民国にはかり、この地域に本質的な影響力を持っている米国・露国・中国の賛同を得て世界の期待を担う平和事業を興すことにより、「対立の文化から共生の文化」への転換を促し、朝鮮半島と日本列島から世界恒久平和への流れを起こすことが熱望されています。

最後に、本日、このような機会をいただきましたハルバート博士記念事業会の金東珍会長様、金会長をご紹介いただいた『英雄』誌の朴昌宰社長様に厚く御礼を申し上げます。

一般財団法人 人間自然科学研究所　理事長

小松電機産業株式会社　代表取締役

小松昭夫

代読：尹熙竣

（KOMATSU KOREA　理事）

5. 亀船の模型公開

半世紀ぶりにアメリカから戻ってきた韓国初の亀船の模型が公開されました。この亀船は朝鮮の発明品に感動されたハルバート博士が1904年アメリカのセントルイスで開かれた世界博覧会に出品するため、韓国で製作されたものです。

ハルバート博士が亀船を国際社会に紹介するため、私費をかけて作り、アメリカにもっていた模型が亀船研究家である全・ウホン先生の努力により韓国に戻ってきました。

朝鮮の水軍が存在していた同時代に生きていたハルバート博士が製作された歴史上初の亀船模型から博士の朝鮮に対する愛を感じることができました。

6. その他

文化遺産国民信託の金宗圭理事長

左：金・ドンジン会長、 右：金顕哲顧問

関係者集合写真